

高塚町村西遺跡

Takatsukachomuranishi Site
The 8th excavation report

浜松市教育委員会

2019年12月

Hamamatsu Municipal Board of Education, December 2019

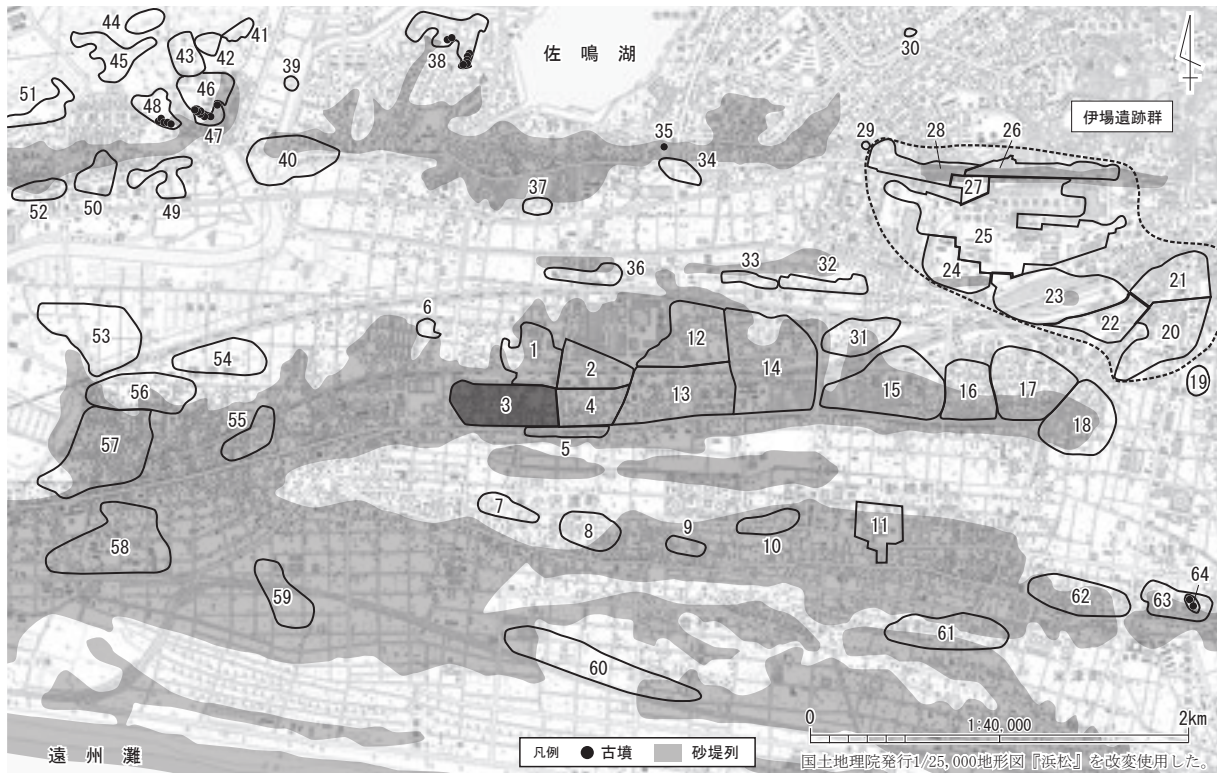


例 言

- 1 本書は、静岡県浜松市南区高塚町 1027-10 外 12 筆における高塚町村西遺跡（8 次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、集合住宅建設に先立ち、浜松市教育委員会（浜松市市民部文化財課が補助執行）が実施した。発掘調査費用は、事業主体である遠州鉄道株式会社が負担した。
- 3 調査にかかわる面積と期間は、以下のとおりである。
 調査面積 104 m²
 現地調査 平成 31（2019）年 3 月 11 日～12 日
 整理報告 平成 31（2019）年 3 月 13 日～令和元（2019）年 12 月 27 日
- 4 現地発掘調査及び整理・報告作業は、鈴木敏則、北澤志織、安川あや（浜松市文化財課）が行った。なお、鈴木は平成 30 年度の担当である。
- 5 本書の執筆は、第 1 章 1、2、第 2 章、第 3 章を鈴木敏則、第 1 章 3 を北澤志織が担当した。
- 6 調査にかかわる諸記録及び出土遺物は、浜松市市民部文化財課が保管している。

目 次

例 言		第 2 章	調査成果	4
第 1 章	序 論	1	1 層位と検出遺構	4
	1 調査に至る経緯	1	2 出土遺物	6
	2 調査経過	1	第 3 章	7
	3 地理的・歴史的環境	2	総 括	7
			図 版	



第 1 図 高塚町村西遺跡周辺の遺跡分布図

第1章 序 論

1 調査に至る経緯

近世東海道が通る南区高塚町は、東西に長い砂堤上にあり、古代以来の遺物が広く採集されてきた。高塚町村西遺跡は高塚遺跡に含まれていたが、埋蔵文化財包蔵地の範囲としては広すぎるため、地形や遺物の散布状況を考慮して、2013年に高塚町村東遺跡、八王遺跡とともに分離された。

高塚町村西遺跡は、JR高塚駅の南側一帯に広がり、古墳時代後期から奈良時代の須恵器や土師器、平安時代の灰釉陶器、鎌倉時代の山茶碗、戦国期から近世の内耳鍋やかかわらけ、陶器類などが発見されている。

高塚駅は通勤・通学者の多い地方通勤型の主要な駅であり、朝夕の混雑を解消し利便性を一層高めるため、橋上駅舎建設、駅周辺整備、駅北の土地区画整理が計画された。これらの事業に先立ち高塚遺跡の調査は、2008年から行われ、本格的な土地区画整理も2014年から始められた。

高塚駅周辺の開発が進む中、旧土地所有者からの依頼により浜松市では2008年5月15日と6月10日の2回、確認調査を行った。その後、遠州鉄道株式会社を事業主体として集合住宅の建設が確定するに及び、浜松市では2018年11月5日に補足的な確認調査を実施した。建物解体に伴う立会の調査成果も加味し、本発掘調査範囲を確定した。本発掘調査に関わる協定書は、遠州鉄道株式会社との間で、2019年3月1日付けで締結された。

2 調査経過

本発掘調査は、集合住宅となる建物を対象とし、まずは建物の形に合わせた幅2mのトレンチを3条掘り、必要に応じ拡張する方針とした。

現地調査は、3月11日から開始した。小雨が降る中、南北方向の1トレンチと建物南辺の東西方向の2トレンチを、12日には建物北辺の3トレンチを調査した。バックホーで掘削したのち、人力で基盤層上面を精査し遺構掘削と遺物採取を行った。トレンチ壁面はきれいに削り、土層の堆積状況を確認した。

第1表 高塚町村西遺跡周辺の遺跡一覧

1 高塚遺跡	縄文・奈良～中世	23 伊場遺跡	弥生(後)～平安	45 玉子遺跡	縄文・古代
2 八王遺跡	奈良～中世	24 城山遺跡	縄文(前)～中世	46 中平遺跡	弥生～奈良
3 高塚町村西遺跡	奈良～中世	25 梶子遺跡	弥生(中)～近世	47 中平古墳群	古墳
4 高塚町村東遺跡	奈良～中世	26 中村遺跡	縄文(前)～中世	48 坊ヶ跡遺跡	弥生～奈良
5 高塚町村中遺跡	古墳～古代	27 梶子北遺跡	縄文(前)～中世	49 東前遺跡	縄文・弥生(前)～奈良
6 大島遺跡	古代	28 三永遺跡	弥生(中)～中世	50 志都呂町中村遺跡	古代
7 八幡山遺跡	中世	29 下山田遺跡	弥生(中)～中世	51 北平遺跡	古墳～中世
8 小沢渡町村中遺跡	奈良～中世	30 戌新畑Ⅱ遺跡	中世	52 中脇遺跡	奈良
9 小沢渡町村中東遺跡	奈良～中世	31 東野宮遺跡	古墳～中世	53 中田尻遺跡	弥生(中)～古代
10 新橋町村中遺跡	奈良・中世	32 井村遺跡	古墳(後)・奈良	54 上幸遺跡	古代～中世
11 旧大通院境内遺跡	中世	33 増楽町村北遺跡	古代	55 篠原町本村遺跡	古代
12 日晩遺跡	古墳～古代	34 八反田遺跡	古墳・古代	56 篠原町仲村遺跡	古代～中世
13 増楽町村中遺跡	古墳～古代	35 入野古墳	古墳(中)	57 国方遺跡	古代
14 増楽遺跡	古墳～古代	36 浜地遺跡	古墳	58 篠原町西前遺跡	古代
15 若林町村西遺跡	縄文・古代・中世	37 入野町村前遺跡	中世	59 八幡前遺跡	古代
16 東若林遺跡	古墳(後)～鎌倉	38 大平遺跡	古墳(前・後)	60 瓦塚遺跡	古墳～中世
17 村裏遺跡	弥生・古墳(後)～中世	39 町田遺跡	中世	61 堤町村東遺跡	古墳・奈良・中世
18 村東遺跡	古墳(末)～中世	40 角江遺跡	弥生・古墳(前・後)	62 新橋町村東遺跡	古墳～中世
19 神田遺跡	奈良	41 カヤノ遺跡	縄文	63 田尻遺跡	古墳・奈良・中世
20 喉東遺跡	弥生(後)	42 熊野東遺跡	弥生(中)～奈良	64 田尻古墳群	古墳(後)
21 鳥居松遺跡	弥生(後)～平安	43 旧花学院境内遺跡	古墳～奈良		
22 九反田遺跡	古墳～中世	44 市郎遺跡	古代・中世		

今回の調査では遺物は存在するものの、古代中世に遡る遺構は確認されなかった。12日中には、遺構図と土層図を作成し、続いて記録写真を撮影することで、現地調査を完了した。

3 地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

遠州灘から三方原台地の南側にかけて広がる海岸平野には、大小合わせて8条の砂堤が形成されている。砂堤は砂礫が堤状に堆積した地形で、海岸線と平行に形成されており、砂堤と砂堤の間には湿地帯が広がり、起伏をくり返しながら平野を構成している。砂堤上には集落や畑が営まれ、湿地帯は水田や沼地になっている部分が多い。砂堤の中で最も規模が大きく、安定しているのが第3砂堤であり、高塚町村西遺跡もここに立地し、現在もJR東海道線と国道257号線が通っている。

(2) 歴史的環境

縄文時代 第1砂堤上に展開する梶子北遺跡では礫群や焼土面、中村遺跡では竪穴状遺構や礫群、焼土面が検出された。出土した縄文土器の時期は、梶子北、中村遺跡では前期末～中期初頭、第2砂堤上の城山遺跡では前期末～中期前半、第3砂堤上の若林町村西遺跡では前期末～中期初頭、同じく第3砂堤上にあり、JR高塚駅の北側に展開する高塚遺跡では中期前半である。第1～3砂堤は縄文時代前期末までには、陸地化していたといえる。

弥生時代 南部の海岸平野において、縄文時代に比べると遺跡の数が増加し、大規模な集落も確認される。第1砂堤上の梶子北、中村、角江、東前遺跡では弥生時代前期の遺物が確認されるものの、まだ農耕の痕跡は確認されていない。しかし、中期中葉以降には本格的な水田農耕が開始され、拠点的な集落が営まれる。梶子、梶子北遺跡では環濠と思われる溝が検出され、中期後葉には中村遺跡から三永遺跡にかけて約50基の方形周溝墓が造営される。そして、後期になると伊場遺跡において三重の環濠を持つ大規模な集落が形成される。だが、後期後半になると遺物の出土量が極端に少なくなり、集落の規模も縮小する。周辺の発掘調査により、この時期以降に厚い粘土層の堆積が認められ、洪水に伴いたびたび冠水する環境になったと考えられる。

古墳時代 古墳時代前期には三方原台地上に大平、中平、坊ヶ跡遺跡などの大規模集落が形成され、中期になると台地縁辺に古墳が築かれる。この時期から、小規模ではあるが平野にも集落が再びみられるようになる。後期には、第1砂堤上の三永遺跡や中村遺跡、第2砂堤上の城山遺跡で竪穴住居跡などが確認され、しだいに平野部での人々の活動も活発化したと考えられる。

古代 律令体制が敷かれると各地に行政区が成立する。高塚町周辺は遠江国敷智郡に含まれる。この頃、第3・4砂堤上には多くの集落が形成される。なかでも伊場遺跡群においては、木簡、墨書土器、硯、鈔帯金具など官衙関連の遺物が豊富に確認され、梶子北遺跡では大型掘立柱建物群も検出された。伊場遺跡群に敷智郡家が存在することは明らかであるが、現状、奈良時代の郡庁や正倉等の遺構は未発見である。また、国府を結ぶ東海道も海岸平野を通っていたが、伊場遺跡では栗原駅、栗原駅長などの墨書土器、屋椋帳木簡、過所木簡など駅制に関する木簡等の遺物が出土しているものの、遺構としては確認されていない。なお、伊場遺跡は駅家関連遺跡とする説がある。

中世 平安時代中期以降、各地に荘園が形成され、高塚町周辺は浜松荘に含まれる。第3・4砂堤上に多くの遺跡が確認されているほか、第1砂堤上の梶子北、中村、三永遺跡では鎌倉時代以降の掘立柱建物群や井戸が、また、城山遺跡では戦国期に掘削された大型の区画溝が検出された。

第2表 高塚町村西遺跡および高塚遺跡の調査履歴

高塚町村西遺跡調査履歴					
次数	調査目的	年月日	遺構	出土遺物	備考
1次	確認調査	2008.05.15	なし	須恵器・土師器	古代
2次	確認調査	2008.06.10	なし	須恵器・土師器・山茶碗	古代・中世
3次	確認調査	2014.12.03	あり	土師器・中世陶器	中世～近世
4次	確認調査	2016.01.07	なし	須恵器・土師器・山茶碗・土師質土器	古墳～鎌倉
5次	本調査	2016.02.01	あり	須恵器・土師器・山茶碗・羽釜・内耳鍋・かわらけ・施釉陶器	古代～近世
6次	確認調査	2017.01.16～18	なし	なし	
7次	確認調査	2018.11.05	あり	須恵器・土師器・山茶碗・内耳鍋・かわらけ	古代・中世
8次	本調査	2019.03.11～12	あり	須恵器・土師器・山茶碗・かわらけ・陶器	古代・中世・近世

高塚遺跡調査履歴					
次数	調査目的	年月日	遺構	出土遺物	備考
1次	確認調査	2008.9.01～12	あり	須恵器・土師器・山茶碗・伊勢形鍋・常滑甕・内耳鍋・かわらけ	古代・中世
2次	本調査	2010.9.15～11.30	あり	縄文土器・須恵器・土師器・灰釉陶器・土馬・貿易陶磁・鉄滓	縄文・古代・中世
3次	試掘調査	2010.10.15	なし	須恵器・土師器・羽釜・内耳鍋・かわらけ・施釉陶器	古代・中世
4次	試掘調査	2010.11.04	なし	須恵器・灰釉陶器・山茶碗・羽釜・内耳鍋・かわらけ・施釉陶器	古墳・古代・中世
5次	試掘調査	2011.07.12～13	なし	なし	
6次	確認調査	2013.10.15～17、11.21	あり	須恵器・土師器・山茶碗・内耳鍋・かわらけ・施釉陶器	古代・中世
7次	確認調査	2014.06.18	なし	かわらけ	中世～近世
8次	確認調査	2014.08.04	なし	なし	
9次	確認調査	2015.05.13	あり	弥生土器・土師器・かわらけ・磁器	弥生・古代・近世
10次	確認調査	2015.06.29	なし	なし	
11次	試掘調査	2015.09.01	なし	須恵器	古代
12次	確認調査	2015.11.06	あり	かわらけ・内耳鍋	古代・中世・近世
13次	本調査	2015.11.19、2016.01.06	あり	山茶碗・かわらけ・内耳鍋	中世
14次	試掘調査	2016.01.08、19	なし	なし	
15次	本調査	2016.04.22～07.28	あり	縄文土器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・かわらけ	縄文・古代・中世



第2図 高塚町村西遺跡および高塚遺跡の調査履歴位置図

第2章 調査成果

1 層位と検出遺構

1 トレンチは建設予定建物のほぼ中央、南北方向（約 18 m）に設定した調査区、2 トレンチは建物南辺、東西方向（約 22 m）の調査区、3 トレンチは北辺、東西方向（約 12 m）の調査区で、配置は第3図に示した。調査は、1 トレンチから順番に行った。

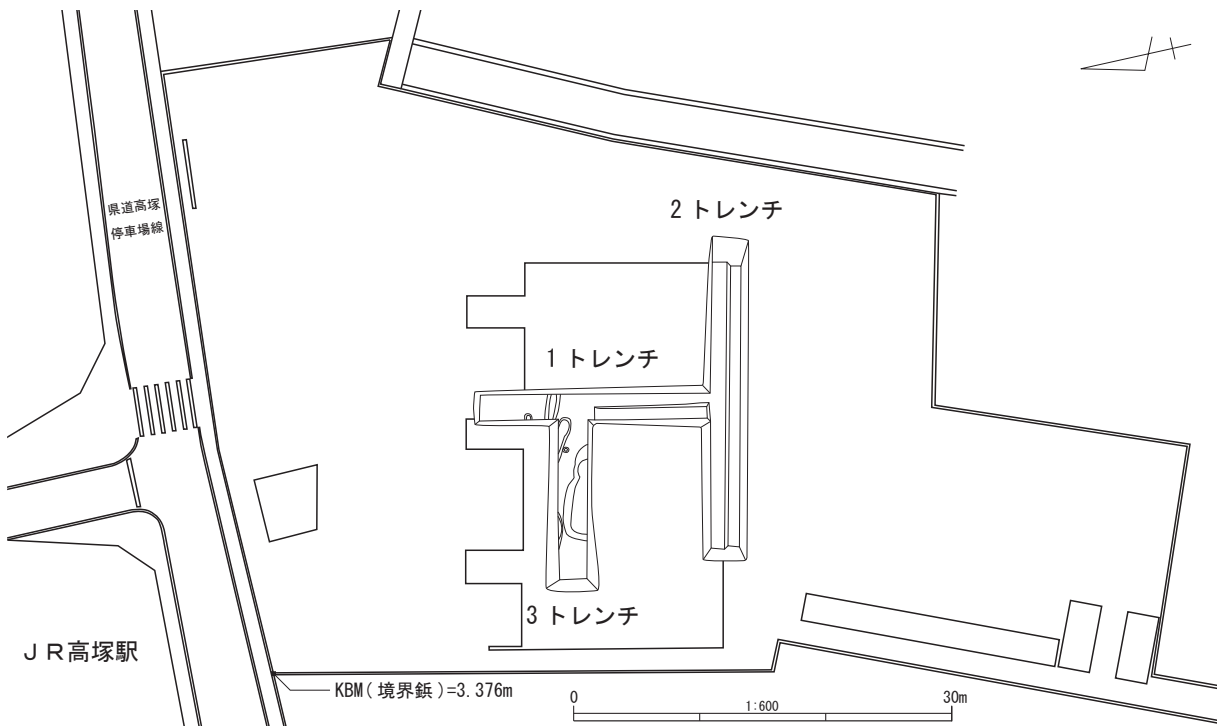
1 トレンチ 地表面の標高は約 3.4 m で、地表下 1 m までは山土を含む造成土である。その下は、北側半分では灰黄色砂層（第4図の 11 層）が存在した。この層は、近現代の陶器を含むことから、造成前の攪乱層である。11 層の下に基盤砂層が存在する。これに掘り込まれた遺構は、溝と小穴が 1 つずつ確認された。2 遺構とも遺物はないが、覆土の状況から中近世と考えられる。

南側半分は、基盤砂層面が南に向い次第に低くなり、湿地に及ぶ。なお、基盤層まで掘り下げたのは西側半分で、幅は約 1 m である。第4図の下段土層 5～9 層が湿地性の堆積層である。2 層は灰褐色砂質土層、3 層は灰褐色砂層で、ともに近世以降の耕作層である。2 トレンチでの状況と同じで、各所に攪乱が及んでいた。湿地部での層位の詳細は、2 トレンチの項で説明する。

遺物は、古代から中世にかけての土器が 5・6 層で発見された。

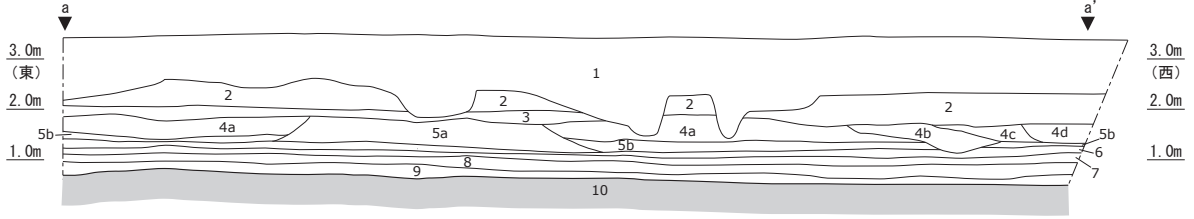
2 トレンチ 2 トレンチは、1 トレンチの南端と同じで、かつての湿地帯にあたる。基盤砂層はすべて湿地性の堆積層（5～9 層）の下で確認された。基盤は標高 0.5～0.6 m で、ほぼ水平である。なお、深掘りは、トレンチの南側半分だけを行った。

トレンチ中央のやや東側には、5 a 層とした暗灰色砂質土層があり、幅 4～5 m、高さ 0.5 m の高まりをなしていることから、大畦畔と考えられる。高まりの両側には、灰青色砂質土の水田耕作層と推定される土層が存在する。青味がかった色を呈するのは、耐水していたことを示す。水田に

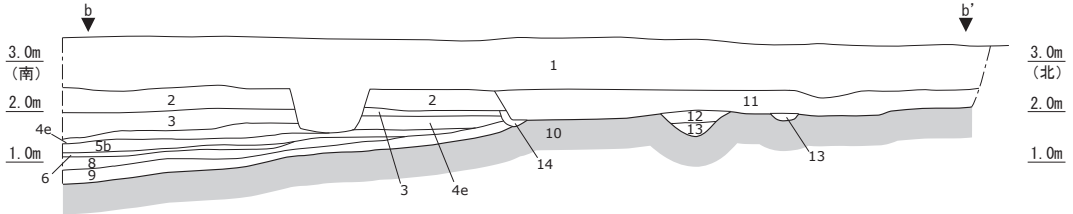


第3図 トレンチ配置図

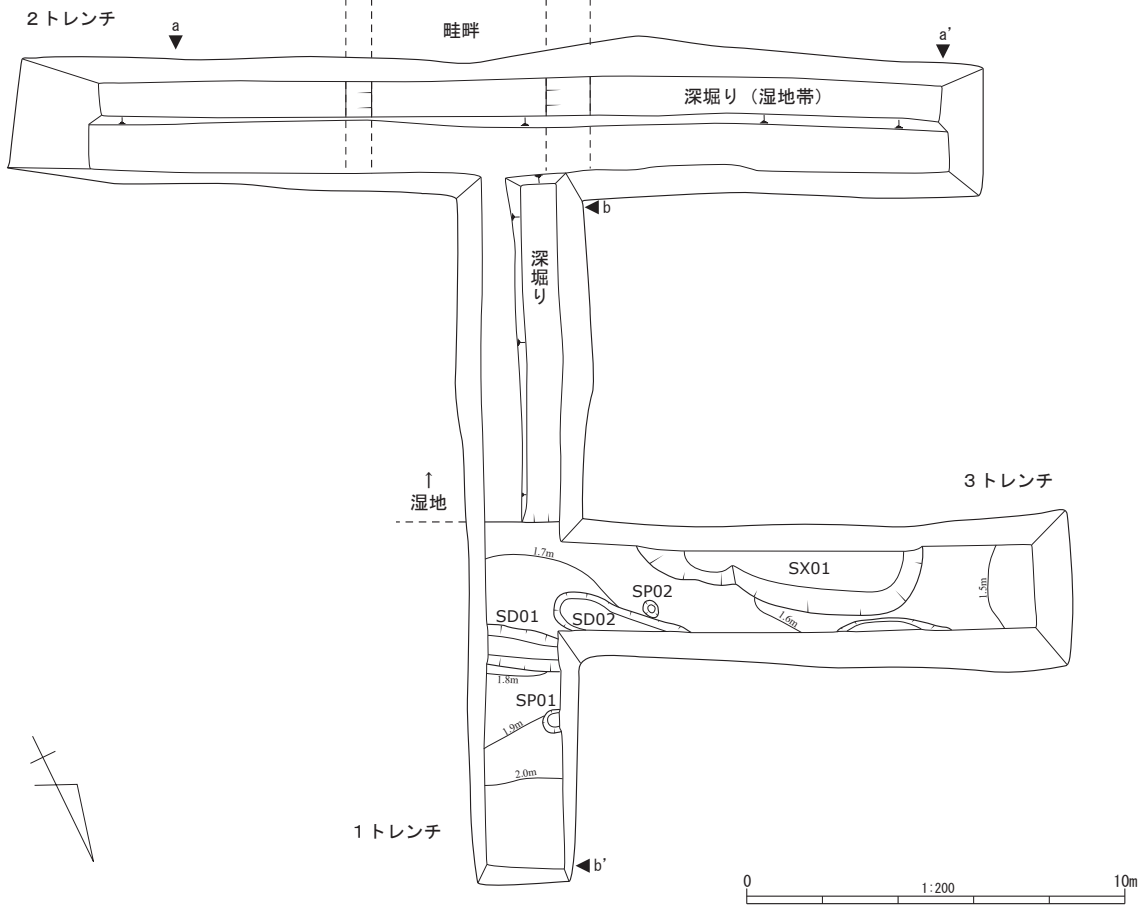
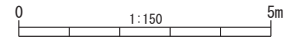
2 トレンチ南壁土層図



1 トレンチ西壁土層図



- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 盛土層・攪乱層 | 7 暗黒色粘土層 |
| 2 灰褐色砂質土層 (旧耕作土) | 8 暗茶色粘土層 (ピート層) |
| 3 灰褐色砂層 | 9 黒色粘土層 (植物遺体含む) |
| 4a 黄褐色砂層 | 10 灰色砂層 (ベース砂層) |
| 4b 褐色砂層 | |
| 4c 黄褐色砂層 | 11 灰黄色砂層 (攪乱層) |
| 4d 暗灰色砂層 | 12 褐色砂層 |
| 4e 暗灰色砂層 (黒色・褐色ブロック砂層) | 13 暗褐色砂層 |
| 5a 暗灰色砂質土層 (旧大畦畔か) | 14 にぶい褐色砂層 |
| 5b 灰青色砂質土層 (旧水田耕作層) | |
| 6 黒灰色シルト層 (遺物包含層) | |



第4図 トレンチ平面図および土層断面図

関わると考えられる5 a、5 b層の下には、6層とした黒灰色シルト層、7層の暗黒色粘土層、8層の暗茶色粘土層（ピート層）、9層の黒色粘土層（植物遺体を含む）がある。6層には8世紀の遺物が確認されるが、7～9層は無遺物層である。

5層には中近世の土器が認められるが、水田は近代のうちに埋められて畑地にされたようである。水田を埋めた土は、4 a～4 d層で、西側半分では、大畦畔から順次西側へ埋められた状況が、土層断面図からも読み取れる。遺跡南側の砂丘の砂を削って埋めていると推定される。

3 トレンチ 3 トレンチは1 トレンチの北側と同じ、高位面にあたる。不定形土坑 SX01、溝、小孔などを検出したが、いずれも近代の攪乱であり、古代～中世の遺構は確認されなかった。遺物は、SX01 に混入したもので、奈良時代と鎌倉時代のものがある。

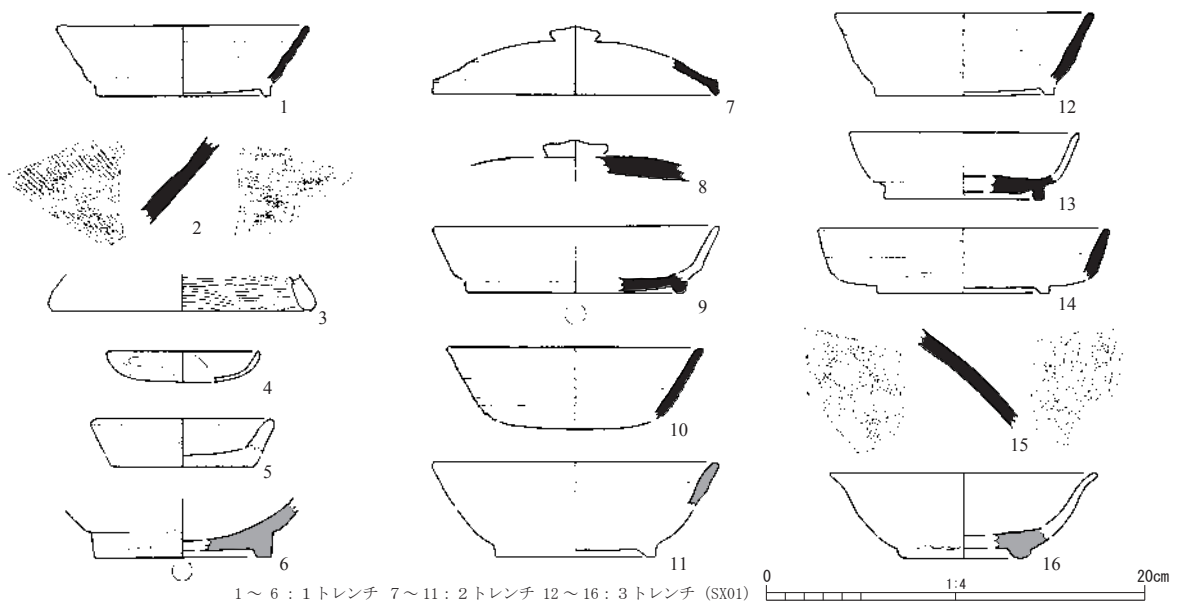
2 出土遺物

出土遺物はすべて土器で、トレンチ別に第5図に示した。古代から近世までの土器である。

1～6が1 トレンチで出土したものである。1・2は湖西窯産須恵器で、1は8世紀前半の有台坏身の口縁部破片、2は7～8世紀の甕体部破片である。2の内面は薄い同心円タタキ目をナデ消し、外面は並行タタキ目を残している。3は7～8世紀の台付鍋の台部破片である。端部は内側に折り返され、内面には刷毛目が残る。4は非ロクロかわらけ、5はロクロかわらけで、ともに16世紀後半の製品である。6は近世瀬戸美濃産の大型茶碗で、内面には灰釉が施されている。

7～11が2 トレンチからの出土である。7～10が8世紀前半の湖西窯産須恵器で、7・8が摘蓋、9が有台坏身、10が無台碗である。8は器壁が厚く、大型の摘蓋のようである。11は渥美湖西窯産の山茶碗の口縁部破片である。12世紀後半の製品である。

12～16が3 トレンチから出土したものである。いずれも SX01 とした攪乱穴から検出された。12～15は湖西窯産須恵器である。12・13は8世紀前半の有台坏身であり、12は口縁部、13は台部の破片である。14は8世紀後半の有台皿と考えられるが、底部を欠く。15は甕の肩部破片で、内面に薄い同心円タタキ目、外面に並行タタキ目が残る。外面には、自然釉が認められる。16は、渥美湖西窯産の山茶碗の底部で、底端面には砂が付着している。12世紀後半の製品である。



第5図 出土遺物実測図

第3章 総括

高塚町村西遺跡での発掘調査は今回が8回目（8次調査）となるが、本発掘調査は5次調査に続き2回目である。5次調査では戦国期と考えられる土坑や小穴は確認されたが、建物跡や井戸、堀などの明確な遺構は確認されなかった。高塚遺跡や高塚町村西遺跡、さらに大島遺跡では、古代から中近世の遺物が広範囲に認められるにも拘わらず、建物など明確な遺構やまとまった遺物が確認されていないのが現状である。今までに調査した場所は、遺跡の周辺部に当たる可能性が高い。遺跡の中心は、砂堤の高まりを留めた、さらに南の地区であったと考えられる。今後の調査に期待したい。最後に、周辺遺跡での最近の成果を含め、時代別に調査成果のまとめをしておきたい。

縄文時代 高塚町村西遺跡とは高塚駅を挟んで北側に位置する高塚遺跡では、2次調査と15次調査において、中期前葉の縄文土器が発見された。15次調査区では土坑も確認され、第3砂堤においても縄文人の生活の跡が認められたことになる。高塚町村西遺跡では当時代の遺構や遺物は発見されておらず、高塚遺跡が南部海岸平野の縄文土器出土地としては、最も南の例となっている。

弥生時代 高塚遺跡9次調査で、弥生土器片が発見されたと報告されているが、高塚町周辺での弥生土器の出土は、第3砂堤上の可美地区ではほとんど知られていない。本格的な弥生集落は東では伊場遺跡群、西では篠原町の中田尻遺跡があるが、両遺跡とも直線距離にして2kmほど離れている。なお、伊場遺跡群は中期中葉から後期の集落で、第1～2砂堤とその周辺に、中田尻遺跡は中期後葉の遺跡で、第3砂堤の北縁に位置する。

古墳時代 高塚遺跡では6世紀に遡る可能性がある須恵器の坏蓋が確認されているが、まとまった数の土器が発見されるようになるのは7世紀以降である。第3砂堤上にある可美地区でも、人々の活動が活発になったことを示すものの、本格的な調査事例は、今のところ存在しない。なお、高塚町村西遺跡では当期の遺物は確認されていない。

古代 今回の高塚町村西遺跡の出土土器の主体は、奈良時代のものである。高塚遺跡でも同様に、奈良・平安時代の出土土器は多い。高塚町内では本格的な集落の調査例はないが、可美地区の東若林、若林町村西、東野宮、井村遺跡で集落あるいは竪穴住居跡が検出されている。古代東海道は近世東海道とほぼ同じところを通っていたと考えられており、古代東海道に沿って存在するこれらの集落は、伊場遺跡群に置かれた敷智郡家を支えた集落でもあったと考えられる。

中世 当遺跡や高塚遺跡だけではなく、増楽、東若林、若林町村西、村裏、村東、東野宮遺跡など、東海道に面した、あるいは近接する第3砂堤上の遺跡群では、鎌倉時代から戦国期の堀や井戸、建物の柱跡の一部など中世の遺構やその時期の遺物が多く発見されている。しかし調査区は狭く、しかも現在までの住宅建築などにおいて攪乱も著しいため、遺構の残存状況は良くない。人々の生活の場として長く栄えてきたことの証でもある。本格的な屋敷跡とか建物は発見されていないが、中世以降、東海道の宿駅間の可美地区の発展ぶりが想像される。

参考文献

- (財)浜松市文化振興財団 2011 『高塚遺跡2次』
- 浜松市教育委員会 2016 『高塚遺跡3』

写真図版 1



高塚町村西遺跡全景
(南東から高塚駅方面)



1 トレンチ全景 (北から)



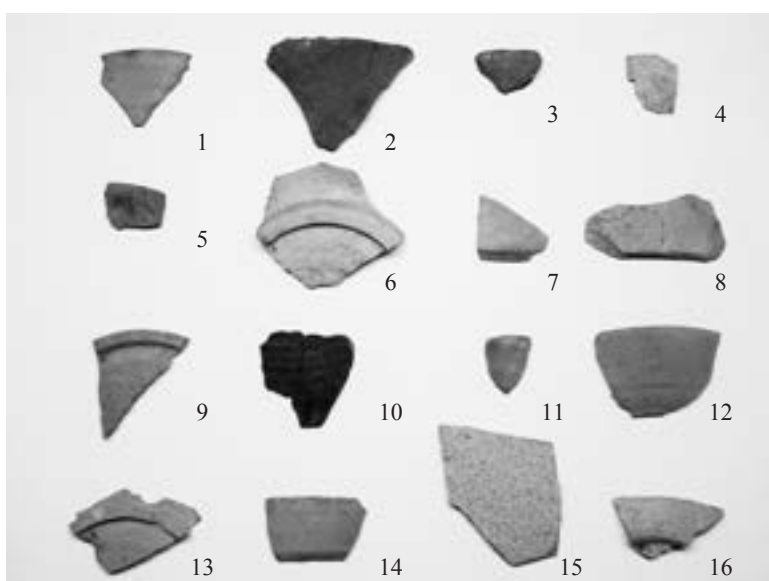
1 トレンチ南側湿地部
(南東から)



2 トレンチ全景 (西から)



3 トレンチ全景 (東から)



出土遺物

報告書抄録

書名 (ふりがな)	高塚町村西遺跡 (たかつかちょうむらにしいせき)							
編著者名	鈴木敏則 北澤志織							
編集・発行機関	浜松市教育委員会 (浜松市市民部文化財課が補助執行) 浜松市市民部文化財課 (浜松市教育委員会の補助執行機関) 〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2 TEL (053) 457-2466 FAX (050) 3730-1391							
発行年月日	2019年12月27日							
ふりがな 遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかつかちょうむらにしいせき 高塚町村西遺跡	静岡県 浜松市南区 高塚町	22134	4-02-16	34度 41分 23秒	137度 40分 54秒	2019年3月11日 ～ 2019年3月12日	104 m ²	集合住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
高塚町村西遺跡	集落	奈良時代 平安時代		(包含層)		須恵器		
	集落	鎌倉時代 室町時代		溝、小穴		山茶碗 かわらけ 中世陶器		

高塚町村西遺跡

2019年12月27日

編集・発行 浜松市教育委員会
(浜松市市民部文化財課が補助執行)
印刷 中部印刷株式会社
